

(別記)

令和7年度春日市地域水田農業推進協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、農地全てが市街化区域にあり、宅地化が進行していることから、農地の減少と分散が続いており、農地の集約などは困難な状態である。そのため、農家の経営規模は小さく、農家の後継者はほとんど他産業に従事しており、農家の高齢化が進んでいる。

また、農作物の作付に関しては、主食用米の作付が主体で、園芸作物は一部にほうれん草や春菊などの施設園芸の取組が見られるものの、自家消費者の露地物の小規模な作付が主体となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

直売所等への出荷を中心に地域振興作物として位置づけ、高収益作物の導入を支援し、地域の実情に応じた適地適作を推進していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

都市近郊型であり、ため池が多く水が確保しやすいため、水田作付が多く畑作物の作付が少ない状況である。今後は、現地確認等により、畑作物のみの生産が続く水田や、自己保全管理となっている水田について、畑地化など今後の活用方法を検討していく。また、農業者の意見や地域の実情に応じ、ブロックローテーション体系の検討を行う。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米づくりを基本に、消費者の評判の高い品種を中心に生産を行い、ブランド米の生産地として地位を確保する。

また、学校給食などへの供給を通じて地産地消の取り組みの強化と安定的な販路を確保する。

(2) 高収益作物

農地の保全と有効利用及び本市が持つ都市近郊という特性を活かして、産地交付金を活用して、ほうれん草、春菊を地域特産野菜として振興を図る。

それ以外の野菜については、市街化区域内の農地維持のため、産地交付金による作付け支援を行いながら、振興を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	9.67		16.4		16.5	
高収益作物	0.86		1		1	
・ 野菜	0.86		1		1	
畑地化	0		0		0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目 標		
				前年度（実績）	目標値
1	ほうれん草、春菊	地域特産野菜助成 （基幹）	作付面積	36a	40a
2	野菜	野菜助成（基幹）	作付面積	50a	79a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:福岡県

協議会名:春日市地域水田農業推進協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	地域特産野菜助成(基幹)	1	15,000	ほうれん草、春菊	営農計画を作成し、転作水田に作付を行う販売農家
2	野菜助成(基幹)	1	10,000	野菜	営農計画を作成し、転作水田に作付を行う販売農家

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。